

## 大阪市手をつなぐ育成会懇親会が 開催されました

平成24年12月7日にKKRホテル大阪のオリオンの間で大阪市手をつなぐ育成会懇親会が開催され、74名の親や支援者の参加がありました。

今年の懇親会は、来賓として育成会の外部の理事や評議員の他に大阪手をつなぐ育成会の坂本理事長のご参加もありました。

育成会の理事でもある平和寮の村江施設長による乾杯のご発声で懇親会が始まりました。当日はお天気にも恵まれ、会場からはライトアップされた大阪城も望むことができ、懐かしい話や近況も交えた歓談にも花が咲き、あっという間の2時間で、最後に小泉副理事長のあいさつでお開きとなりました。

なかなか日常では会う機会が少ない親同士が、一同に会することができる懇親会を今後とも続けていって欲しいという声も聞かれました。

## 障がいのある方の権利擁護についての 勉強会が開催されました

東育成園 河本 南美子

12月20日に一般社団法人ふせ支援ネットワークが運営する「ふせまちかど相談所」代表の前川 敦さんをお招きして勉強会が開催されました。

かつて、障がい者支援の歴史では障がい者自身の選択肢が少なく、障がいを理由に施設入所を勧めて、障がいのある方を閉じ込めるだけでなく障がいのある方を排除するような社会の動きであったそうです。

しかし、現在では2000年に始まった介護保険制度、2005年に始まった障害者自立支援法によるサービスによって「在宅か施設か」の選択ではなく「在宅においてサービスを受け、住み慣れた家での生活を継続する」ことを目指しサービスや制度が整備されました。しかし、それでもなお日常生活において、過剰な支援やサービスにより障がい者の意思を尊重していないことが多々あるのではないかと問いかけられました。また、差別や障害は「障がい者」だけの問題ではなく「ふつうの地域生活」のあり方が問われます。そのためにはサービスの柔軟性とマネジメントが必要だと話されていました。この事は障がい者だけでなく、これからの高齢化社会においても地域に溶け込み、相互理解することがとても必要不可欠なものだと思います。

また、2000年に成年後見制度が始まりましたが、

後見人が少なく、いざ利用したいと考えた際にも面倒な手続きがあるなど敷居が高い為、なるべく早く成年後見制度の利用を考えるべきだともお話しされました。しかしながら成年後見制度を利用すると選挙権の剥奪がある等、障がいのある人には厳しい現実がある事も事実です。その事を踏まえ親として厳しい現実を憂う事なく社会体制の整備と地域社会の障がい者に対する意識向上の為にどうすればよいかを考えてみなければいけないと思いました。



## 料理教室を開催しました

福島育成園 管理栄養士 茶谷 和美

12月15日(土)、クレオ大阪南にて「料理教室」を開催しました。

今回は「クリスマス風ランチとデザート」と題し、メニューは、煮込みハンバーグデミグラスソース、ポテトサラダ、グリーンサラダ、コーンスープ、パン、クリスマスドライフルといったクリスマスを意識した、ご家庭でも簡単に作る事ができる内容です。できるだけ利用者の方々に調理に参加していただけるよう、工程を簡単にし、時間をゆったりと使うことを心がけ、メニューを作成しています。



メインのハンバーグは、玉ねぎのみじん切り、玉ねぎを炒める、ひき肉とパン粉や卵、調味料と混ぜ合わせる、形を作る、焼く、煮込む、と工程が多いのですが、普段食べ慣れているものでもあり出来上がりが想像しやすいため、スムーズに作る事が出来たように思います。